

屋上緑化最適植物探る

清田研究室 コスト面の分析も

で、コストを抑えられるかをデータで示したい」と話している。屋上緑化を体験してもらうため、プラントの見学にも応じる。同大総務部 ☎082(921)3123。

実験プラントは、1方(4階建て)の屋上に2区4方と3区4方にセダムや芝、サツマイモを植えた。比較のためにはアスファルトや木片を混ぜた舗装材を敷いた区画も置く。

晴天の昼間、植物や

舗装材と建物が接する面の温度を計測すると、アスファルトは約40度に達したのに対し、木片を混ぜた舗装材は約35度、セダムは約31度にどどまった。温度変化は来年12月まで、終日にわたって1分ごとに記録し、外気条件などで効果がどのくらい変わるかを調べる。

市の「地球温暖化対策推進条例」は、来年4月から市街化区域で敷地面積千平方メートル以上の建物を新築するか改築すると、一定割合の緑化を義務付ける。清田教授は「屋上緑化を広げるため、どんな植物や土を使えば効果的

広島工業大(広島市佐伯区)の清田誠良教授(52)＝建築環境工学＝の研究室が、屋上緑化の実験プラントを構内につくり、低コストで効果的な緑化の方法を探っている。植物によっては、建物の表面温度を大幅に下げることが実証された。(藤村潤平)

広島工業大に実験プラント



屋上の実験プラントで、セダムの育ち具合を確認する清田教授

キャンパス
苑